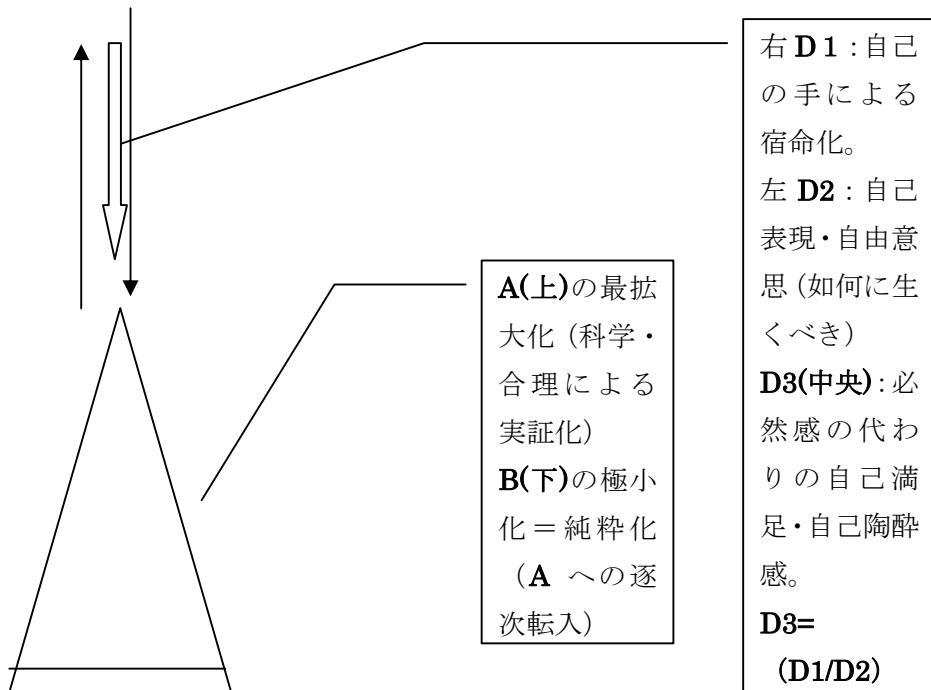


甲図【西欧十九世紀構図】・・・分離線の最下降

『十九世紀』近代自我：個人主義と言ふ名の「動きまはる影・あはれな役者(マクベス)』

・ (C) ・・・神 (主人公) は背景へと遠ざかる。宿命(神意)からの解放。

・ (C") 個人主義 (自己主人公化・自己全体化：神に型どれる人間の概念の探求) ・・・宿命(神意)からの解放



「十八世紀が楽天主義の時代に見えるのは、個人の純粹性と「支配＝被支配の自己」とのあいだの調和に合理化がおこなわれうると信じてゐたためであつた。十九世紀においてはその信仰が失はれてしまった」